

うえだ あつし

市政へ特効薬



西宮市議会議員の職を預かり、初めての新年を迎えました。
医療や介護を受ける方の声を、いかにして市政へ届けるかを模索しながら
の議員活動を行っております。今回は「**第16回定例会(12月議会)報告**」
と「**施策研究テーマ**」を中心に記事としております、ぜひご覧ください。

うえだ
あつし
後援会

〒662-0977 西宮市神楽町5-5-102
(携帯電話)090-6603-3156
TEL:0798-37-3670/FAX:0798-37-3671
メール:nishinomiya@ueda-atsushi.net

詳細は
ホームページを
ぜひご覧ください。

<http://ueda-atsushi.net>

西宮 うえだあつし

検索



ホームページ facebook

第16回定例会 (12月議会) 報告

■補正予算案

一年間の計画に基づく当初予算があるものの、予測し
難い事態に対応するために「補正予算」が組まれます。今
年度は台風被害に対しての補正予算も多く組まれました。
ところで、この【予算】は足りなくなるのも問題ですが、
余れば良いというものでもありません。

一年間の計画に基づいた当初予算が大きく余るとい
う事は、計画に基づく事業が執行されていないことの表れ
でもあります。

例をあげますと、今回、一般介護予防事業費が減額補正
となりました。これはいきいき体操の普及啓発等に使う
費用です。当初の計画より、いきいき体操のグループを
増やすことが出来なかったために減額となったのです。

介護予防事業は積極的に取り組むべき、市の重要施策
だと私は考えています。

ですから、なぜ計画どおり執行できなかったのかをしっ
かりと検討することが大切だと考えます。

尚、今議会の予算関連議案は賛成多数で承認されました。

■条例案

今定例会でも行政より多数の議案提出がありました。
これらに対して委員会では詳細な審査を行い、最終的
には本会議場で採決を行います。

今回、ひとつの議案が**否決**されました。

「西宮市職員定数条例の一部を改正する条例制定の件」
です。これは市職員の定数増加に繋がる条例です。

市民が行政に求めるサービスが多様化し、その量が
増大していることは確かかもしれません。しかし、近い将来、
人口減や高齢化に伴う税収の減少は避けられないもので
あり、これを鑑みれば、安易に認める事は出来ない条例
です。

まずは業務の効率化を図り、次に民間委託などを検討
するべきです。これらを成さずに、職員定数の増は考える
事は出来ません。

今後も各種議案に関しては、市民の視点を大切に審査
してまいります。

施策研究テーマ (フレイル予防について)

「定例会(本会議)が無いときは何をしていますのですか?」
というような質問を受ける事があります。

色々ありますが、そのひとつが「**施策研究**」です。

議員は市政の運営を市役所に任せっきりにするのでは
なく、自身で調査・研究して、市に報告します。

健康福祉常任委員会では『健康寿命延伸のために(フレ

イル予防について)』を今年の施策研究テーマとしています。

調査・研究を良いものとするために、市内各所を視察し
たり、先進事例の文献に目を通したり、また先日(10/29~
31)は市外への視察も行いました。(詳細はうえだあつし
のホームページやFBをご参照ください)



西宮市議会議員 **うえだあつしプロフィール**

ウラ面に続きます。ぜひご覧ください。

- 1977年2月9日 西宮市前浜町生まれ
- 学校薬剤師として学校園の衛生管理に参画
- 浜脇小学校、浜脇中学校、西宮今津高校卒業
- 西宮市応急診療所にて一次救急に参画
- 摂南大学薬学部卒業(薬剤師)
- 西宮市薬剤師会・兵庫県薬剤師会にて理事を歴任
- 西宮生まれ、西宮育ち、西宮で働く、生粋の「宮っ子」
- 2018年4月 西宮市議会議員補欠選挙 初当選
- 西宮地区薬物乱用防止指導員として活動

フレイルとは？

皆さんは「フレイル」をご存知でしょうか？英語で「脆い」^{もろ}や「虚弱」を表す、フェイルティー (Frailty) を語源とする用語です。このカタカナ用語自体を覚える必要はありませんが、概念としてフレイルを知る事は大切です。

フレイルとは加齢とともに運動機能や認知機能が低下し、日常生活に支障が出始めた状態であり、健康な状態と

要介護状態の中間的な状態ともいえます。

一度、日常生活でサポートが必要な要介護状態に陥ると、そこから健康な状態にもどる事は困難であるため、介護状態の一手手前のフレイル状態になることを予防することが、健康寿命の延伸に繋がります。

フレイルの要因

【運動機能の低下】【栄養状態の悪化】【社会との繋がりの希薄化】の3つが特に大きな要因です。他にも認知機能の低下や持病の悪化、骨折等の怪我など、要因を挙げれば

きりがありません。フレイルはこれらが複雑に絡み合っておこります。どれか一つの要因を取り除けば良いというものでもなく、全てにおいての対策が必要です。

フレイル予防として

フレイル状態は、適切に予防すれば日常生活でサポートが必要な要介護状態に進まずに済む可能性があります。

しかしながら、自身がフレイル状態であることに気がつく事は難しく、加齢のためと諦めている方も少なくありません。また、フレイル予防として何を行えば良いのかを正しく知る事も重要となります。

フレイル予防の取り組みとして本市では「西宮いきいき体操」「ふれあい昼食会」「健康講座」などを実施していますが、これらは参加者自身の健康志向が高く、自発的な行動を起こせる方に向けた取り組みです。言わば行政から見て受動的な取り組みであり、これだけでは不十分と言えます。

新しいフレイル対策の必要性

フレイル対策を必要とする方は、社会との繋がりが希薄であることが多く、行政の取り組みが受動的なものばかりであれば、これらの方は見捨てられる事となりかねません。

私の考えるフレイル対策に必要なものは【**積極性**】です。

フレイル対策を必要とする方への積極的なアプローチとして、その方のお宅へ直接訪問し、そこでフレイル予防を実施するような取り組みがあります。実際に他市では健康寿命延伸や介護費抑制などの大きな成果を上げて

おり、本市でも検討するべきです。

またフレイル状態の方は社会との繋がりが希薄であるとはいえ、医療機関には定期的に通う方が多いと言えます。ですから、医療と行政がしっかり連携することで積極的なアプローチが可能になると考えます。

時代の変化とともに地域のつながりは薄れつつあります。だからこそ行政が地域の世話役を担い、積極的な取り組みを支援する必要があると考えます。

フレイル対策の行く先

私は議員として、また医療に携わる者として、フレイル対策に取り組んでいます。一見すると対象者は高齢者に限定されるように感じるかもしれませんが、しかし、家族全員の健康の上に豊かな生活があることを医療現場で強く感じて

きました。だからこそ、今年の施策研究テーマ『**健康寿命延伸のために（フレイル予防について）**』は**全世代の方に重要**なものであり、西宮市の行く先を明るくすることができる大きなテーマだと考えます。

